



映像教材「18歳」 活用の手引き

この度は、映像教材「18歳」をご利用いただき誠にありがとうございます。

「18歳」は、2022年4月の**成年年齢引き下げ**を受け、高校生たちにより**リアルな感覚**で学習を進めてもらいたいと考え、「映画」の手法を使って作成した教育図書のオリジナル映像教材です。ぜひ最後の「**エンドロール**」までご覧ください。

ここでは、【**活用のヒント**】や【**授業展開例**】、【**話し合いの方法の例**】を簡単にご紹介いたします。教材の活用の際には、別添の「学習指導計画案」も参考にしてください。おもに高等学校・家庭科での活用を想定して作成いたしましたが、あくまでも一例ですので、授業のさまざまな場面・さまざまな方法でご活用いただければ幸いです。

【活用のヒント】

1 映画の中のキーワード

- ・大人 ・18歳 ・投資 ・キャッシング
- ・自分で決める ・自由 ・責任 ・マルチ商法 など



2 関連教材（教育図書発行）

- ・「おとなドリル」 定価 154円
- ・NHKDVD教材「18歳成人 ～できること できないこと～」 定価 16,500円
- ・DVD「笑費者になろう！～笑って学ぶ消費生活～」 定価 19,800円

3 キャリア教育の視点

- ・アカネのキャリアプラン（海外で働きたい夢、英会話教室、TOEIC）と、ユミのキャリアプラン（友達の考えに流されている）との比較
- ・エンドロールから、1つの映画をつくるにはこれだけ多くの人に関わっているということに気づかせる（多くの人の協力・協働・コミュニケーションが必要）

【授業展開例】

展開例1：「消費生活」の学習の導入で「18歳」を観る場合

- ⇒動画の内容の疑問点を出し合って、そのことについて学習を深めていく（知識・技能）
- ⇒「18歳」のような結果に陥らないようにするにはどうしたらよいか考える（思考・判断・表現）
- ⇒自分の生活にどのように生かしていけるかを考える（主体的に学習に取り組む態度）

展開例2：「消費生活」の学習のまとめとして「18歳」を観る場合

- ⇒映画の中のキーワード（上記参照）を理解しているか（知識・技能）
- ⇒「18歳」のような結果に陥らないようにするにはどうしたらよいか考える（思考・判断・表現）
- ⇒消費者の権利と責任を自覚して、実生活の中で行動しようとしている（主体的に学習に取り組む態度）



展開例 3：「家庭科」の学習の導入として「18 歳」を観る場合

⇒「おとなドリル」を併用し、「大人の条件」について考えさせる。

⇒「契約」に焦点を当て、自分で判断したものは責任が生じることを理解させ、だからこそ正しい知識を身につけることが必要であることを理解させる。

⇒「家庭科」を学ぶ意義や、自分の生活から課題を見つけて生かそうとする態度の育成につなげる。

【話し合いの方法の例】

例 1： アカネに投資を誘われたユミの場面で映像をストップして、このあとどうなるかを考えさせる

- ・ユミならどうするか？
- ・あなたならどうするか？

⇒まずは自分で考えてみる

⇒グループで考えを出し合う（他者の意見を知る）



例 2： 最後の場面で、ユミが言いたかったことを考えさせる

- ・自分自身に対して何を言いたいか（心の声）
- ・友人達に対して何を言いたいか

⇒まずは自分で考えてみる

⇒グループで考えを出し合う（他者の意見を知る）



例 3： 最後の場面で、ユミとアカネの心情を考えさせる

- ・アカネのユミに対する気持ち
- ・ユミのアカネに対する気持ち
- ・アカネの自分自身に対する気持ち
- ・ユミの自分自身に対する気持ち

⇒まずは自分で考えてみる

⇒グループで考えを出し合う（他者の意見を知る）



例 4： 最後まで観て、若者が巻き込まれやすい消費者トラブルについて話し合う

- ・若者が巻き込まれやすい消費者トラブルの事例は？
- ・どうしてそのようなトラブルが起きてしまうのか？ トラブルの背景は？
- ・もしも消費者トラブルに巻き込まれてしまったらどう行動したらよいか？
- ・トラブルに巻き込まれないためにどう行動したらよいか？

⇒まずは自分で考えてみる

⇒グループで考えを出し合う（他者の意見を知る）

